

独裁とねじれ

共同通信社論説委員
柿崎 明二

- * 権力闘争を放棄した深い罪
- * 共産党との選挙協力を考える
- * 政党連合を巡る非対称
- * なぜ官僚の忖度が生まれるのか
- * 強すぎる政権が続く理由
- * 野党再生の道筋は何か
- * 最近珍しい政局的な動き
- * 今は亡き野中広務氏の予言
- * 面白い大阪維新の統治機構改革
- * 山本太郎のいわ新選組をどう見るか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は初めて共同通信社論説委員の柿崎さん
においていただきました。柿崎さんは61年生ま
れで、早稲田大学をご卒業後、毎日新聞に4年
おられ、その後共同通信に移られております。
政治の世界では、特に政府の問題がまたいろい
ろと物議を醸すようなことが起きておりますが、
安倍内閣の支持率は相変わらず高率を保ってお
ります。この先どうなるかについてはいろいろ
なことが様々な場面で言われておりますが、今
日はその深いところをお話しいただけると思っ
ております。それでは柿崎さんよろしくお願
いいたします。（拍手）

権力闘争を放棄した深い罪

柿崎 初めまして。共同通信の柿崎と申しま
す。よろしくお願ひいたします。職歴は先ほど
ご紹介いただきましたが、政治を見始めたのは
1993年の細川内閣の末期からです。です
から、いわゆる本物の55年体制というのは肌感覚
ではわかりませんが、その後の自民党一党支配
の次の時代、政権交代まで含めた中で取材をし
てまいりました。最初の段階では主に自民党の
経世会です。まだ天下を取っていた時代です。
野中広務さん、梶山静六さんとかを担当させて
いただきました。その当時のいちばん若い世代
が今の官房長官です。当初、菅義偉官房長官も